

創立100周年
記念事業
最終報告書



国立大学法人

九州工業大学

九州工業大学
からの挨拶

- 九州工業大学からの挨拶 1
- 明専会からの挨拶 2
- I 決算報告 3
- II ご寄附いただいた方・団体の内訳について 5
- III 創立100周年記念事業の概要とその成果 6
- IV これまでの歩み 22
- V 100周年記念事業にご寄附いただいた皆様(芳名録) 23



本館跡地に建立された「百周年中村記念館」(平成25年3月16日開館)

1909年(明治42年)に創設された私立明治専門学校を起源とする国立大学法人九州工業大学は、107年の輝かしい歴史と伝統を継承して参りました。歴史的にも最も急速に変化する時代においても、教育と研究の成果を活用して、わが国及び世界の発展に貢献するため、21世紀教育基金と21世紀国際人財育成基金の創設、および中村孝氏の寄付による百周年中村記念館を三つの柱とする記念事業を実施してきました。お陰様で多くの皆様のご理解とご支援を賜り、本報告書に記載しますように、着実に成果を挙げる事ができました。九州工業大学を代表しまして、衷心より御礼申し上げます。

本学の前身、明治専門学校の経営を託された山川健次郎先生が提唱された「本校は単なる技術を授くるの場所に非ずして、人間形成の道場であらねばならぬ」との高い理想、すなわち「技術に堪能なる士君子」を養成するという開学以来の理念を、九州工業大学は100年以上にわたって継承してきました。この伝統は新しい技術や産業を創成するとともに、世界をリードする高度技術者、すなわちグローバル・エンジニアを輩出し、我が国の産業界に貢献する研究成果を挙げてまいりました。

人類社会は地球規模で解決すべき複雑かつ困難な数々の課題に直面しています。明治専門学校を創設された安川敬一郎先生の信念、「財は吝むべからず、須らく之を活用すべし」を継承している本学は、英知を結集した教育と研究を通して、このような地球的課題を解決することを責務と考え、使命達成のために精力的に活動を続けております。

研究活動による学術の発展と課題解決は大学の自助努力であるべきと考え、100周年にあたってご寄附いただきました篤志は、次世代の日本および世界を支える人材を育成するために活用させて戴く事業に邁進しております。21世紀教育基金並びに21世紀国際人財育成基金は、「創造する個」と「グローバル人材」の育成を目的として推進する教育プログラムに活用させて戴いております。毎年400名を超える若者が海外での勉学やインターンシップに参加するなど、グローバル時代に相応しい人財が学内外における活動を通して育ちつつあります。

あらためまして、100周年に際して九州工業大学に対してご醸金を賜りました皆様と、記念事業の推進にご尽力賜りました明専会をはじめとする関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



九州工業大学
第12代 学長
松永 守央
(任期:平成22年4月～平成28年3月)



九州工業大学
第13代 学長
尾家 祐二
(任期:平成28年4月～)

明専会からの
挨拶

母校は、明治42年に安川敬一郎翁と山川健次郎先生の崇高な理念によって創立されましたが、平成21年(2009年)にめでたく創立100周年を迎えました。それを記念しての募金活動の検討は、平成15年(2003年)年から始められました。

100年の歴史の中で輩出した「技術に堪能なる士君子」たる技術者は、5万余名を数え、多くの先達が世のため人のために大きな足跡を残されました。

そこで、新時代の「技術に堪能なる士君子」を養成する事業を行うために、明専会は母校と連携して、創立100周年記念募金を強力に推進して参りました。募金の受付は、大学と明専会の両方で連携をとって行い、企業募金に際しては、各支部の幹部が諸先生の先導役を務めて企業を廻り、個人募金に際しては、学部、年次、クラブ等々あらゆる関係を洗い出して呼びかけるなど会員各位に献身的なご協力を頂きました。

明専会に寄せられた寄附金は、建学の精神を不易なものとして次世代に継承し、幅広い教養を身につけ実践力のある人材を大学と共に育成することにし、「明専会・創造学習支援事業」と「明専会・グローバル人材育成事業」の基金として活用しております。また、中村孝先輩の巨額な寄附での百周年中村記念館は旧本館跡地に建設され、平成25年(2013年)3月に開館致しました。交流の場として有効活用され、「明専塾」も盛況裏に既に110回以上が開催されております。

ここに、各位の浄財を有効に活用させて頂いておりますことをご報告し、改めて御礼を申し上げます。



撮影:住友一俊氏

明専会
第6代会長

山本 一元

(任期:平成18年4月~平成25年3月)



明専会
第7代会長

高原 正雄

(任期:平成25年4月~)

1. 九州工業大学受入

(1) 収入

(円)

費目	金額
100周年記念 寄附受入金額	434,544,725
運用益	8,092,554
合計	442,637,279

(2) 支出

(円)

費目	内訳	執行額
① 100周年運営費	ア 募金活動経費・式典実施経費・その他記念事業運営経費	46,420,604
	イ 21世紀COEプログラムに伴う学生奨学支援	37,337,264
② 100周年記念推進事業費	ウ 印刷物送料、ロゴデザイン料、その他諸雑費	1,460,052
③ 100周年記念誌作成関係	エ 100周年記念誌作成に係る一般管理費、人件費	54,401,544
④ 21世紀教育基金 創造学習支援事業	オ ※ グループ創造学習支援事業・組織整備事業	26,883,354
⑤ 21世紀教育基金 大学院学生支援事業	カ 博士後期課程社会人支援(奨学事業)	38,211,000
	キ 博士後期課程外国人留学生支援(奨学事業)	53,751,985
⑥ 21世紀国際人財育成基金 語学研修支援	ク ※ アメリカ・オールドドミニオン大・情報工学部IIF等語学研修への学生派遣支援	12,494,222
⑦ 21世紀国際人財育成基金 教育研究拠点整備	ケ イギリス・サリー大学への学生(大学院生)派遣事業	25,957,275
	コ マレーシア・プトラ大学との大学間交流及びMSSC関連事業	16,549,995
⑧ 被災学生への緊急支援奨学金	サ 東北地方太平洋沖地震の被災学生に対する奨学事業	400,000
合計		313,867,295

※ 平成21年度から平成24年度で終了。平成25年度からは、明専会の母校支援特別事業により実施

(3) 執行残額

(円)

平成27年度期末残額	128,769,984
------------	-------------

※ 執行残額については、平成28年度より九州工業大学基金として運用いたします。

2. 明専会受入

(1) 収入 (円)

明専会寄附受入額	181,263,000
----------	-------------

(2) 支出 (円)

費目	執行額
100募金推進事業費	30,268,782
広報費	8,173,050
※ 母校支援特別事業 【平成25年度～平成27年度】	45,600,000
合計	84,041,832

※ 平成25年度から「母校支援特別事業」として、「グループ創造学習支援事業」、「海外学生派遣支援」等に支出。

(3) 執行残額 (円)

平成27年度期末残額	97,221,168
------------	------------

3. 中村 孝様 寄附受入

(1) 収入 (円)

本学卒業生 中村 孝様 より寄附受入額	500,000,000
---------------------	-------------

(2) 支出 (円)

百周年中村記念館 建設費 + 維持費	442,281,113
--------------------	-------------

(3) 執行残額 (円)

平成27年度期末残額	57,718,887
------------	------------

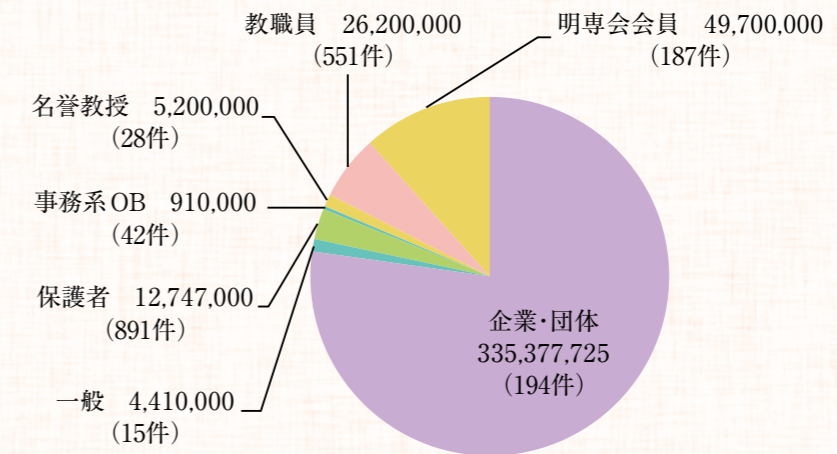
※ 執行残額は、平成28年度から百周年中村記念館の維持費として使用

1. 九州工業大学受入

区分	件数	金額(円)
企業・団体	194	335,377,725
一般	15	4,410,000
保護者	891	12,747,000
事務系OB	42	910,000
名誉教授	28	5,200,000
教職員	551	26,200,000
※ 明専会受入 大学回送分	187	49,700,000
合計	1,908	434,544,725

※ 明専会で受け入れたが、領収書の関係から大学受入れとしてカウントした分

[寄附者・団体の内訳]



2. 明専会受入

区分	件数	金額(円)
明専会会員	5,066	175,193,000
教職員	76	6,070,000
合計	5,142	181,263,000

※ 件数には、お一人の方が複数回に分けて寄附されたケースも含んでおります。

① 100周年運営費

明専会の協力のもと、本学執行部が各企業様をご訪問し、100周年記念事業をご説明のうえ、募金のご依頼をさせていただきました。

また、平成21年5月28日に、創立100周年記念式典(リーガロイヤルホテル小倉:北九州市小倉北区)を挙行し、記念講演会、祝賀会を開催し、新しいロゴマークも披露いたしました。当日は、卒業生や各界の関係者約750名の皆様にご臨席を賜り、盛大に開催することができました。



下村学長(当時)式辞



山本明専会会長(当時)祝辞



麻生県知事(当時)祝辞



元東京工業大学 相澤学長講演



記念式典の様子



学歌斉唱



会場の風景

創立100周年記念CDを制作 (発行日:平成21年2月28日)

本学の吹奏楽部、交響楽団の演奏、メンネルコールの合唱により、学歌を収録したCDを制作しました。CDには本学建学の祖である山川健次郎博士の発明協会での演説「愛国心と尚武心」も収録しました。



- 学歌**
- 斉唱 フルバージョン
 - 斉唱 ア・カップレラ
 - カラオケバージョン

- 演説**
- 山川健次郎博士 「愛国心と尚武心」
 - 1923年(大正12年)発明協会での講演を収録

21世紀COEプログラムに伴う学生奨学支援 (平成20年度～平成23年度の事業)

文科省の21世紀COE(Center of Excellence:中核的教育研究拠点)プログラムにおいて、世界をリードする創造的な人材育成を目指し、大学院学生への奨学事業を行いました。

平成20年度から4年にわたり、このプログラムに関わった28名の博士後期課程の学生を支援しました。(人)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	合計
博士後期課程学生 奨学事業受給者	14	8	5	1	28

② 100周年記念推進事業費

創立100周年の節目として、学内公募によりシンボルマークを制定しました。

平成21年5月28日に開催された創立100周年記念式典にて、新しいシンボルマークとロゴのデザインが正式に披露されました。

[シンボルマーク 制作コンセプト]

- 2009年創立100周年の節目に、学内公募によりシンボルマークを制定しました。原作者は、工学部建設社会工学科4年(当時)の澤野大地氏。澤野氏の原案を、プロデザイナーがモディファイしました。
- これからの未来、これからの100年 「動作・活動」=Action
- 今までの歴史、今までの100年 「価値・値打ち・評価」=Value
- 未来と歴史を1本にボルトのモチーフでつなぎとめて、全体として1本の太い棒にしています。貫かれた大学方針を表しています。
- 学生の飛躍感や、社会・世界へ飛び出していく元気のよいイメージ。上記を組み合わせて、九州工業大学の頭文字「K」の形になります。
- A(action) V(value) K(kyutech)の頭文字をユニットにし、フレッシュで斬新なイメージのカラー使いで未来へ羽ばたいていく学生やこれからリードしていく大学を表現しました。



新しいロゴマークの披露

③ 100周年記念誌作成関係

九州工業大学百年史を編纂

私立明治専門学校の創設(1907年・明治40年)から19年までの本学の歴史をまとめ、「九州工業大学百年史」を編纂いたしました。平成16年より編集委員会を中企画を開始し、編集のための資料収集整理には、学ボランティアの方にご協力いただきました。



「九州工業大学百年史」
● 通史編
● 資料編
発行日:平成21年3月31日

創造的思考能力、問題解決への情熱を有し、技術と経営を理解し、実践できる基礎力を持った創造的人材の育成、“人づくり”をコンセプトとして次の事業を実施してきました。

④ 創造学習支援事業

学生の課題探求とその解決能力を涵養し、工学基礎力と共に、コミュニケーション能力、情報処理能力、企業マネジメント能力、及び幅広い教養を身につけ、企業・社会において先導的リーダーシップを発揮できる創造的人材を育成する事業を行いました。

グループ創造学習支援事業、創造学習支援組織整備事業

学生グループによる自主的な課外活動として、技術系競技大会への参加やボランティアをはじめとした企画を支援してきました。学内で企画提案の公募を行い、プレゼンテーション審査により支援プロジェクトを決定してきました。

採択年度	地区	プロジェクト名	指導教員	
平成21	戸畑	IQプロジェクト～見せます！華の地元企業～	仲間 浩一	
平成21～24		学生フォーミュラ「KIT - Formula」	河部 徹	
平成21～24		全日本ロードレース選手権GPレーサープロジェクト	西川 宏志	
平成21～24		マイクロメカニズムプロジェクト	伊藤 高廣	
平成21～24		里山再生プロジェクト	伊東 啓太郎	
平成21～24		鳥人間コンテスト選手権大会	平木 講儒	
平成21～24		ARLISS (A Rocket Launch International Student Satellites)	平木 講儒	
平成22～24		つくばチャレンジ参加プロジェクト	西田 健	
平成22～24		KIT Can Sat Project	趙 孟佑・豊田 和弘	
平成22～24		衛星開発プロジェクト	趙 孟佑	
平成23～24		北九州情報セキュリティ勉強会「セキュ鉄」	井上 創造	
平成24		陸前高田市今泉復興支援	徳田 光弘	
平成24		全日本学生フォーミュラEV 大会出場プロジェクト	大屋 勝敬	
平成24		飯塚	電気自動車製作プロジェクト	カチヨン ルンラン パナート
平成24			A.C.P.(Android Creation Project)	小林 順

100周年事業としては、平成24年度までの支出とし、平成25年度からは、明専会の母校支援特別事業の一環として、引き続き、ご支援いただいています。

支援年度	地区	グループ名	取組内容
平成25～27	戸畑	九州工業大学KINGS	自立帰還可能な小型機体を制作し、国際レベルの競技会に参加
		衛星開発プロジェクト	学生による人工衛星「鳳龍参号」の開発
		KIT-CANSAT Project チームCANCAT	機体を上空から放出し、マイコン制御によって地上のゴールを目指す競技に参加
		学生フォーミュラ「KIT - Formula」	全日本学生フォーミュラ大会への出場
	飯塚	KIT EV Formula Vol Tech	学生フォーミュラ(電気自動車部門)車両の製作
		ロボットコンテスト参加プロジェクト	ロボットコンテスト参加プロジェクト
平成25～26	戸畑	e-car	コンバート電気自動車製作プロジェクト
		P&D	実践的IT技術開発プロジェクト
	飯塚	DSPシステム部(ETロボコン)	「組込みシステム」分野における技術教育をテーマに、決められた走行体で指定コースを自律走行する競技に参加
平成25～26	戸畑	CIR-KIT(サーキット)	自律移動ロボット製作プロジェクト
		GPレーサープロジェクトチーム	全日本ロードレース選手権 GPレーサープロジェクト
平成25・27	戸畑	RoDEP	ロボカップレスキュー実機リーグへの出場
平成25	戸畑	宇宙クラブ	有翼ロケット飛行実験プロジェクト
		次世代衛星間通信開発プロジェクト	超超小型衛星の開発・北極圏気象の国際連携観察
	飯塚	家庭用サービスロボット製作チーム	ロボカップ@ホームリーグへの参加
		プログラミング同好会	企業主催のタブレット型端末のアプリ作成コンテストへ参加
		無線部	ロボット相撲全国大会出場プロジェクト
平成26	飯塚	ソフトウェア開発勉強会	ソフトウェア開発における知識と経験の習得
		自然科学部(ロボット班)	ロボット相撲大会への参加
平成26	飯塚	ね研	ウェブアプリケーションに最適化されたOSの開発
平成27	若松	Hibikino-Musashi	自律ロボットの開発と協議会への参加
		Kyutech Underwater Robotics	水中ロボットコンテストへの出場
	飯塚	BioZ	ソフトウェア開発を行い、コンテストへ参加
		戸畑	ARC(アーク)



鳳龍参号の開発(衛星開発プロジェクト)



機体整備(KIT - Formula)



全日本学生フォーミュラ大会出場



里山再生プロジェクト



機体整備(GPレーサープロジェクト)



全日本ロードレース選手権出場



(RoDEP)ロボカップジャパンオープン2014にて「Best in Class Autonomy」を受賞



宇宙クラブによる有翼ロケット実験



(e-car)コンバート電気自動車による「四国EVラリー」参加

飯塚キャンパスの「e-car」は、コンバート電気自動車(Electric Vehicle:以下EV)をチームで製作しており、平成24年から続けて、グループ創造学習支援事業に採択されてきました。

コンバートEVとは、ガソリン自動車の車体からエンジン等を取り除き、代わりにモーターやバッテリーを搭載した電気自動車のことです。

「e-car」では、毎年、四国で開催される「四国EVラリー」に参加し、優勝を目標に活動しています。

2年前「e-car」の部長を務めていた鴛海 祐希さんから、在学中に経験した取り組みの苦労や、現在の会社でその経験が、どう活かされているか、また、支援に対する感謝の声などを皆様にお届けします。

ホンダエンジニアリング株式会社
生産技術部
パワートレイン生産技術ブロック

おしうみ ゆうき
鴛海 祐希さん



2014年 九州工業大学大学院情報工学府 博士前期課程 情報システム専攻 機械情報工学分野修了。同年ホンダエンジニアリング株式会社入社。現在、栃木県芳賀郡芳賀町の生産技術部パワートレイン生産技術ブロックに所属。

—現在は、会社でこういった仕事をされていますか—

パワートレイン生産技術ブロックに所属していて、エンジンやミッションなどのアルミ鋳造プロセスの生産技術開発に取り組んでいます。

アルミ鋳造とは、アルミを溶かして、金型に流し込んで製品をつくる製法で、シリンダブロックなどの複雑な形状を一発でつくることができます。

私はシミュレーションを活用して鋳造で起きる現象を再現し、あらかじめ欠陥を予測する技術の構築に取り組んでいます。

—在学中に携わった「e-car」のコンバートEVについて、取組みのきっかけや苦労した点などを教えてください—

在学中、所属学科の鈴木 裕 教授から「電気自動車製作プロジェクト」の企画が出され、この呼びかけに大変興

味を持ち、活動に参加することになりました。

私が部長を務めていた当時は、キャンパス内で“モノづくりプロジェクト”を行う土壌がありませんでした。そこでパイオニアとして「飯塚キャンパスにモノづくりの場をつくらう！」という思いで電気自動車製作プロジェクト「e-car」に取り組み始めました。

活動当初は、場所も無く、メンバーも限られており、なにより活動予算が無かったことが大きな問題でした。そこで100周年事業に応募し、採択されてご支援して頂くことになりました。

プロジェクトを進める中で、電気自動車に改造した車両を車検に通すには大変苦労しました。車両として、国の基準を満たし、車検を通らなければ、ナンバーが交付されず、公道を走ることができません。活動当初は、技術的にも法規面においても、何もわからない状態からのスタートでした。車検の経験がある他大学を訪問したり、九州陸運局の方と毎週のように打ち合わせを行い、車検



の基準を満たすためのクルマづくりを進めていきました。苦労の末、四国EVラリー出場の数日前に車検が通り、自分達が作ったクルマにナンバーが付いた時は、感無量でした。

このようなプロジェクトは1人ではできません。チームのメンバーが協力し合い、周囲の助けがあって達成できることだと思います。真剣に活動に取り組むと、熱意が周りに伝わり、徐々に輪が広がって協力して頂ける方が増えてくるのを実感しました。

—当時の経験が現在の職場で、どう役立っていますか—

大学でも企業でも、チームでプロジェクトを進めるということは基本的に変わりません。

それぞれのチームメンバーに役割が与えられ、協力し合い、PDCAを回してプロジェクトを推進するという流れは、当時の経験を通じて身につけることができたと思います。

Hondaでは若手に積極的に仕事を任せるといった企業風土がありますので、学生時代にこのような活動を経験していると強みになると思います。

また、活動を通じて「現場」に足を運び、「現物」に触れ、「現実」を捉えるというモノづくりにおける三現主義の考え方の重要性を学ぶことができました。講義でいくら理論を学んでも、実際にやってみると上手くいかないことが多々ありました。この失敗から学ぶことは、大変有意義で、実際に経験することによって、初めて理解できることも多く、座学では学ぶことができない貴重な経験でした。

ひとつのことをやり遂げると大きな自信に繋がります。製造業では、モノづくりが好きになる人も多く、本学のプロジェクトの経験は非常に興味を持たれ、就職活動にも活かされました。

—後輩の皆さんに対してひとこと。また、100周年記念事業のグループ創造学習支援事業への感謝についてお願いします—

企業に入ると利益が求められるため、自分達が思うがまま、自由に取り組むことはできません。

学生の皆様には、自分がやりたいことを実現するチャンスとして捉え、学生時代にしかできない自由な発想で、



勤務先の正門前にて



プロジェクトにチャレンジすることを願っています。

100周年事業のような学生を支援する仕組みがあることは、非常に素晴らしいことであり、ご支援頂いたことに大変感謝しています。

引き続き、同窓会の明専会から学生プロジェクトにご支援をいただき、こういった取り組みの成果が、「九州工業大学はモノづくりに強い大学である」というブランドイメージを向上させていると感じています。

今後も学生プロジェクトにより、モノづくりの精神が育かれ、世界で活躍する優秀なエンジニアが、母校から育っていくことを祈念いたします。



社内にて“アシモ”といっしょに

⑤ 大学院学生支援事業

博士後期課程社会人学生支援、外国人留学生支援(奨学事業)

経済的な負担を軽減し、安心して学べる環境を整備して、優秀な人材を多く確保し、教育研究を発展させることを目的として、博士後期課程の社会人学生、外国人留学生に対して奨学事業を実施してきました。

(人)

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	合計
博士後期課程 社会人学生	23	20	25	21	18	10	19	136
博士後期課程 外国人留学生	4	12	17	19	22	23	19	116
	合 計							252

感謝のことば



大学院生命体工学研究科 博士後期課程

脳情報専攻 3年 緒方 貴宏 さん

(勤務先: 株式会社アステック 細胞科学研究所)

平成25年10月に社会人特別選抜で生命体工学研究科博士後期課程に入学した際、社会人学生奨学事業に採択していただき、深く御礼申し上げます。

私は母校である九州工業大学を博士前期課程で修了した後、企業の研究職に就いていましたが、博士号の重要性を改めて認識する場面が多々ございました。特に製品紹介や技術説明会の場で初対面の方、しかも海外の方に説明する際、博士号の有無により冷遇される場合がありました。技術士やAPECエンジニアを取得した

今でも、博士号の重要性を痛感しています。

そんな折、私の高専時代の先輩の大坪先生から社会人学生の道を紹介いただきました。現状を変える可能性があること、そして何よりも純粋な学術研究に関われることに喜びを感じ、現在に至っております。入学後は大坪先生から熱心なご指導を賜り、また国際学会をはじめ多くの場で発表の機会をいただき、社会人では経験することができなかった学術研究や自己研鑽の時間に費やすことができ、自身にとって大変有意義に感じています。

「技術に堪能なる士君子たれ」この言葉を肝に銘じ博士号取得に向け精進し、また修了後には習得した知識技能を社会に還元することで、技術士として課せられている「公益確保の責務」を全うしていく所存です。

ご支援をいただいております九州工業大学OBの方々をはじめ多くの方々へ、この場をお借りしまして心より深く感謝申し上げます。

感謝のことば



大学院工学府 物質工学専攻

博士後期課程 1年

張 恩恵 さん (韓国)

去年の秋、私は博士後期課程に進学するにあたって、たくさんの経済的な悩みを抱えていました。修士課程より実験に集中する時間も増え、

今までのようにアルバイトをしながら大学の勉強に専念することは、体力的に、また精神的にもとても大変でした。そんな中、本奨学金の奨学生として選ばれることになり、精神的に生活費や授業料で悩まされることなく勉強に専念できる機会を戴きました。

留学生の立場はとても不安で、全ての生活において自分の力で乗り切らなくてはならないものが多い中、今回100周年記念事業奨学金から支援をいただくことで、留学本来の目的にあった生活を送ることができました。本当に感謝しています。

感謝のことば



大学院生命体工学研究科 生命体工学専攻

博士後期課程 3年

MARYALA SAI KIRAN さん (インド)

このたび100周年記念事業奨学金への感謝の意をお伝えすることができ、大変光栄です。

留学生在が、自身のキャリアプランで、長期間にわたる質の高い教育を希望した場合、財政的

支援が必要不可欠です。私自身、実家からのサポートを受けることは難しく、言葉の壁から、日々の生活費を賄うためのアルバイトを見つけることも困難です。

この奨学金をいただいたことで、心身ともに疲れ研究に集中できずにいた状況から抜け出し、平穏な生活を送ることができました。また、時間の使い方にも選択肢が生まれ、ボランティア活動やインターンシップなどを通して、知識を深めることもできました。

今後もこの奨学金により、多くの留学生在が研究に専念し、様々な面で刺激を受け、日本滞在が思い出深いものになることを望んでいます。

⑥ 海外研修事業

本学の先導的研究を中心に国際交流拠点を形成し、教育研究の国際化、高水準化を図ると共に、学生の国際理解能力を養成し、世界に通じる先導的技術者(グローバルエンジニア)の育成に努めてまいりました。語学研修事業を拡大し、アジア地区への教育研究交流も活発になりました。

なお、100周年記念事業としては、平成24年度までの支出とし、平成25年度からは、明専会の母校支援特別事業の一環として、引き続き、ご支援いただいています。

研修派遣人数

年度	派遣先	戸畑	飯塚	合計
平成22年度	シドニー工科大学 (オーストラリア)		1	1
	フリンダース大学 (オーストラリア)		1	1
	モナッシュ大学 (オーストラリア)		1	1
	オークランド工科大学 (ニュージーランド)		3	3
	ビクトリア大学 (カナダ)		2	2
	オールドドミニオン大学 (アメリカ)	8		8
小計		8	8	16
平成23年度	ウーロンゴン大学 (オーストラリア)		1	1
	ビクトリア大学 (カナダ)		1	1
	オールドドミニオン大学 (アメリカ)	8		8
小計		8	2	10
平成24年度	ビクトリア大学 (カナダ)		3	3
	ウーロンゴン大学 (オーストラリア)		1	1
	タマサート大学シリンドホーン国際工学部 (タイ)		1	1
	キングモンクット大学北バンコク校 (タイ)		1	1
	Nihon Technology Private Limited (インド)		1	1
	ポートランド州立大学 (アメリカ)		1	1
	オールドドミニオン大学 (アメリカ)	10		10
小計		10	8	18
平成25年度	オールドドミニオン大学 (アメリカ)	10		10
	オークランド工科大学 (ニュージーランド)		1	1
	ビクトリア大学 (カナダ)		1	1
	プリティッシュ・コロンビア大学 (カナダ)		1	1
小計		10	3	13
平成26年度	オールドドミニオン大学 (アメリカ)	9		9
	オークランド工科大学 (ニュージーランド)		3	3
	ビクトリア大学 (カナダ)		2	2
	シドニー工科大学 (オーストラリア)		1	1
小計		9	6	15
平成27年度	オールドドミニオン大学 (アメリカ)	10		10
	カンターベリー大学 (ニュージーランド)		1	1
	INTO ロンドン (イギリス)		1	1
	クイーンズランド大学 (オーストラリア)		1	1
	プリティッシュ・コロンビア大学 (カナダ)		1	1
小計		10	4	14
合計		55	31	86

⑦ 教育研究拠点整備

イギリス・サリー大学への学生(大学院生)派遣

平成22年度～27年度まで、毎年12名、合計72名の大学院生をイギリスのサリー大学に派遣し、その経費の一部を支援してきました。

感謝のことば



工学府 博士前期課程

機械知能工学専攻 2年

又木 隆彦 さん

平成27年8月にイギリス、サリー大学での留学プログラムに参加しました。授業ではメールや会話表現などの実践的な英語と科学技術分野の専門用語やテクニカルレポートの構成などの技術英語を中心に学びました。

英語で指示を受け、自分で考えながら学習す

ることは、とても刺激的で、毎日緊張感と楽しさを持って授業に取り組んでいました。また、最終日には自分の研究内容のプレゼンテーションを英語で行い、この時学んだ表現方法は、その後の学会発表でも大いに役立ちました。

講義の他にも、ホームヴィジットでの伝統的な家庭料理やカントリーサイドの美しい風景を通してイギリスの文化を体験できたことで、見聞を深めるとともに、もっと世界に目を向けたいという思いが強くなりました。今後も英語と工学の勉強に取り組み、世界で活躍できる技術者を目指したいと思います。

最後に、100周年記念事業により、このような留学プログラムをご支援いただきましたことに心より感謝申し上げます、コーディネーターの Ian Ruxton 先生にも深くお礼申し上げます。



一緒に参加した九工大メンバーと



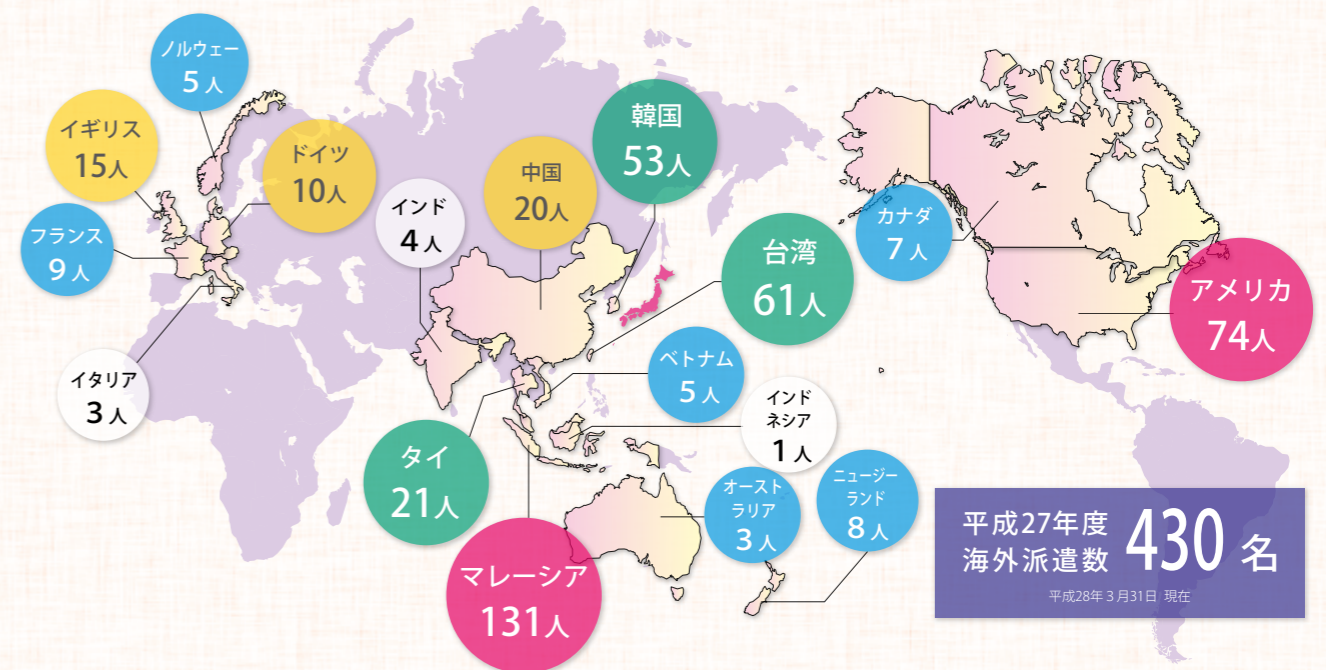
ホストファミリーの皆さん

100周年記念事業がステップとなり～（海外派遣）

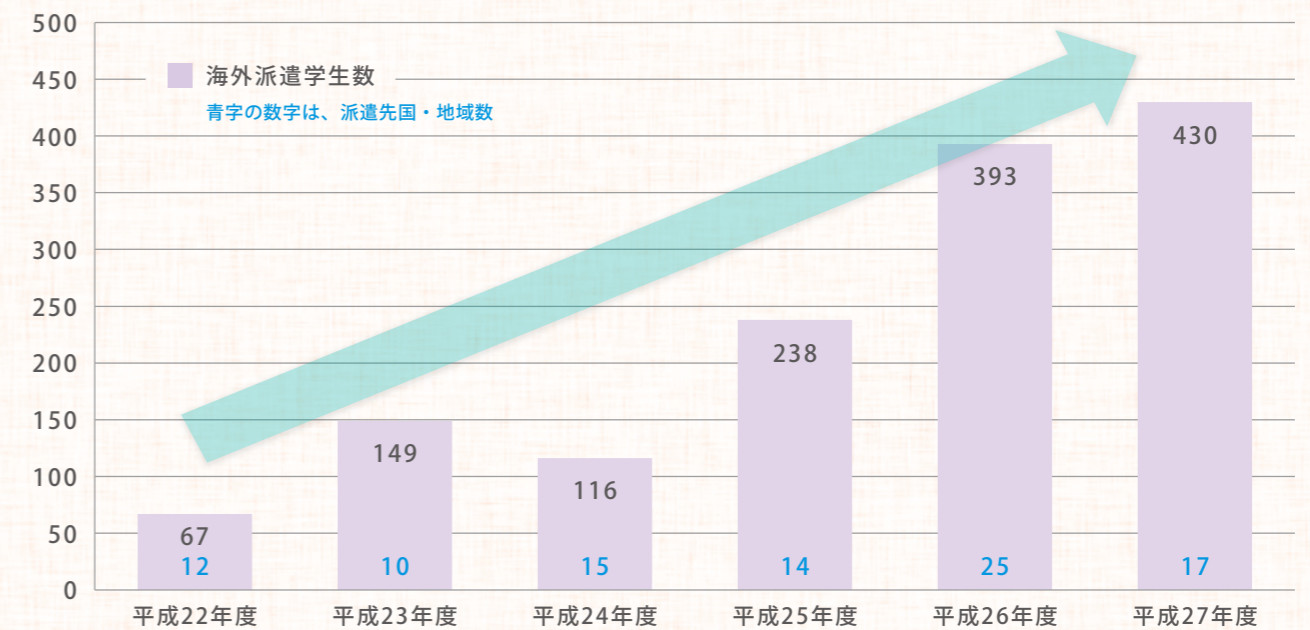
100周年記念事業の支援では、国際的に活躍できる技術者育成としてグローバル人材育成を掲げ、当初、提携校への語学学習などを中心に海外派遣を進めて参りましたが、この取り組みは、その後、平成25年度の文部科学省の補助金「国立大学改革強化推進事業」の採択に繋がり、グローバル・エンジニアを養成する教育パッケージの事業を推し進めることになりました。

その結果、平成26年度に393名、平成27年度に430名もの学生を海外に派遣することに繋がりました。

平成27年度 海外派遣プログラム成果(派遣学生数)



海外研修等の推移（平成22年度～27年度）



マレーシア・プトラ大学との大学間交流及びMSSC関連事業

アジアの先端研究が目覚ましいことから、アジア地区に拠点校を1校設け、教育研究交流を進めることを目的に事業を実施した。具体的には、マレーシア・プトラ大学との学生の交流、大学院学生の教育プログラムの実施、また、共同研究の推進などの実施に関して支援を行ってきた。

この取組は、平成25年4月にマレーシア・プトラ大学内に国立大学初の海外拠点「MSSC」の設立と繋がり、現在、この施設では、様々な学生交流プログラムや海外インターンシップの支援が行われ、本学から多くの学生が派遣されています。



マレーシア・プトラ大学の外観



松永前学長とプトラ大学長との調印式(平成25.2.21)



本学大学院生とプトラ大学の大学院生によるワークショップの様子



本学学生の発表の様子



両学生による合同ダンス

100周年記念事業の支援を受けて～（プロジェクト支援）

平成27年度 マレーシア法人へのインターンシップ参加状況

夏季（8月～9月）

企業名	概要	参加人数
AEON CO.(M) BHD.	イオン(株)	3
DAIHATSU (MALAYSIA) SDN. BHD.	ダイハツ工業(株)、日野自動車(株)	2
KYUDENKO MALAYSIA SDN. BHD.	(株)九電工	2
MINEBEA ELECTRONICS MOTOR (MALAYSIA) SDN.BHD.	ミネベア(株)	2
Panasonic Manufacturing Malaysia BHD.	パナソニックグループ	2
SANKYU(MALAYSIA) SDN. BHD.	山九(株)	2
Top Thermo Mfg.(Malaysia) SDN.BHD.	サーモス(株)	1
Toyo Engineering & Construction Sdn. Bhd.	東洋エンジニアリング(株)	2
TOYOTA AUTO BODY (MALAYSIA) SDN. BHD.	トヨタ車体(株)	2
UMW TOYOTA MOTOR SDN.BHD.	トヨタ自動車(株)	2
JETRO KUALA LUMPUR	JETRO (独立行政法人日本貿易振興機構)	1

合計 21

春季（2月～3月）

企業名	概要	参加人数
CANON MACHINERY (MALAYSIA) SDN.BHD.	キヤノングループ (キヤノンマシナリー)	1
KDDI Malaysia Sdn. Bhd.	KDDI(株)	2
KISO-JIBAN(MALAYSIA) SDN BHD	基礎地盤コンサルタンツ(株)	1
ORGANO(ASIA) SDN BHD	オルガノ(株)	1
PANASONIC AVC Networks Kuala Lumpur Malaysia Sdn.Bhd	パナソニックグループ	2
SRI TAKADA INDUSTRIES (MALAYSIA) SDN. BHD	(株)高田工業所	1
Oji Asia Management SDN.BHD.	王子製紙(株)	1
SHARP ELECTRONICS Malaysia SDN. BHD.	シャープ(株)	2

合計 11



マレーシアのトヨタ車体でのインターンシップ



現地法人での工場見学



JETRO [(独)日本貿易振興機構]

平成21年度から実施してきた100周年事業による各種の教育支援の取組みは、現在、本学が掲げる“グローバルに活躍する高度技術者”の育成の礎を築くこととなり、当初の支援が大きく開花し、学生のプロジェクトへの志向や海外志向を高める効果が育まれました。

人工衛星開発プロジェクト

100周年記念事業の一環として、鳳龍プロジェクトが立ち上がり、平成24年5月18日、H-II A ロケットに搭載された「鳳龍式号」は、無事に打ち上げが成功しました。そして同年7月8日、世界初の300V 高電圧発電に成功。それまでの最高値、国際宇宙ステーションの160Vを超える快挙を成し遂げました。

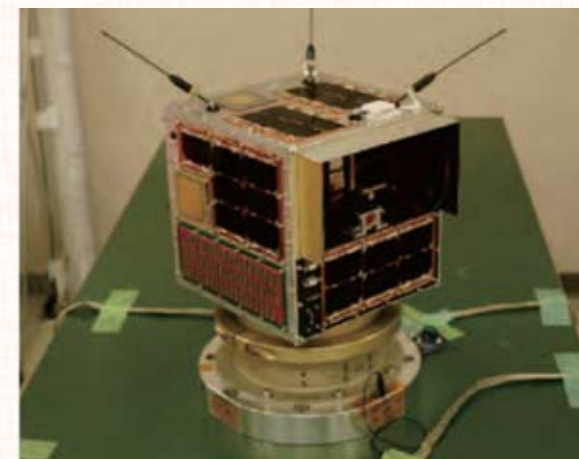
この衛星プロジェクトは、今では「鳳龍四号」の開発に繋がり、同機は、平成28年2月17日に打ち上げられたH-II A ロケット30号機に搭載されて、鳳龍四号は無事に分離された後、本学の地上局において、コールサインの電波の受信を確認することができました。



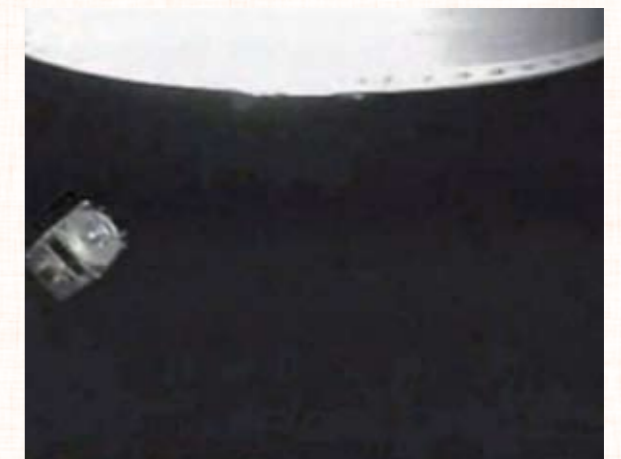
打ち上げ前に説明するファール研究職員



パブリックビューイングの様子



鳳龍四号フライトモデル



分離直後の鳳龍四号 (JAXA デジタルアーカイブスより)

平成27年10月から、日本人大学院生3人を含めナイジェリアやガーナ、バングラデシュ、モンゴル、タイの留学生と共同で計4個の超小型衛星を開発し、本学と海外6大学で共同運用する「Birdsプロジェクト」に取り組んでいます。宇宙航空研究開発機構(JAXA)の支援事業を利用して平成28年に国際宇宙ステーションから軌道に投入する予定です。

本学は、宇宙技術と宇宙利用に関する国際的人材ネットワークの構築を通じて、宇宙空間の平和利用の推進に貢献することを目指しています。

メモリアル事業

百周年中村記念館を開館

創立100周年を迎えるにあたり、大学の卒業生である中村 孝氏より「母校創立の精神と、明専～九州工大と連なる輝かしい伝統に想いを馳せ、100年の歩みを伝えるような記念館を、創っていただくようお願いいたします」との書信とともに多額のご寄附を頂いたことから、戸畑キャンパスの本館跡に記念館の建設を企画いたしました。

母校の永続を願った中村氏の想いを継承し、在学生・卒業生だけでなく、企業や地域の皆様も利用できる大学の新しいシンボルとして、平成25年3月16日に開館いたしました。



[寄贈者 中村孝氏 略歴]

- 大正 6年(1917年) 12月 山口県徳山市に生まれる
- 昭和15年(1940年) 3月 明治専門学校(現九州工業大学)電気工学科卒業
- 昭和15年(1940年) 1月 三菱重工業(株)名古屋航空機製作所へ入社
- 昭和20年(1945年) 11月 フタバ産業(株)設立に参加、常務取締役、監査役などを歴任
- 昭和25年(1950年) 11月 (株)電元社制作所に入社、専務取締役、代表取締役などを歴任
- 昭和37年(1962年) 3月 大阪大学にて工学博士
- 昭和52年(1977年) 11月 黄綬褒章受章
- 昭和63年(1988年) 4月 勲五等旭日章受勲
- 平成元年(1989年) 2月 紺綬褒章受章



中村記念館の外観



開館のテープカット(平成25年3月16日)



明専会事務局と中村氏の銅像(1F)



偉大なる先生、先輩方の顕彰(1F)



中村ギャラリー(1F)

2階の多目的ホールでは、学会やシンポジウム、講演会などをはじめ、様々な催し事や学内行事に使われ、空き時間には、通常の授業にも活用されており、利用頻度が高く好評を得ています。

年度	種別	学会・シンポ等	講演会・セミナー	会議・研究会・説明会等	式典・イベント	明専塾等・明専会関係
平成25年度		1	16	12	8	8
平成26年度		12	12	9	13	11
平成27年度		11	14	14	16	12

※ 空いている時間は、通常の授業や試験等にも活用しています。



カルロス・ゴーン氏による講演



カルロス・ゴーン氏 パネル展示視察



第100回明専塾(日立製作所)の講義



明専塾記念祝賀会の様子



明専会設立100周年記念式典



2014 サマーサイエンスフェスタの会場

九州工業大学100周年記念事業各種事業の経緯

平成15年 2月 5日 100周年記念事業「計画委員会」「式典等実行委員会」「募金活動実行委員会」発足
 平成16年 3月 3日 100年史編集委員会発足
 平成17年 8月27日 募金活動実行委員会委員及び記念事業実行委員会委員について承認
 平成18年 3月22日 100周年記念事業推進室を設置
 平成18年10月～ 募金活動開始



募金活動発足式

平成21年 4月～ 21世紀教育基金 — 創造学習支援事業、大学院学生支援事業 支援を開始
 21世紀国際人財育成基金 — 語学研修支援、教育研究拠点整備 支援を開始

平成21年 5月28日 創立100周年記念式典 挙行（リーガロイヤルホテル小倉：北九州市小倉北区）

- 卒業生、各界の関係者 約750名 臨席
- 記念講演会、祝賀会・新しいロゴマークの披露



下村輝夫学長(当時)による式辞



祝賀会の会場の様子



寮歌・学歌音唱

平成25年3月16日 百周年中村記念館を開館



中村記念館の外観



開館のテープカット



寄附者の銘板(2F)

平成28年3月17日 100周年記念事業委員会で、100周年記念事業を終了し、九州工業大学基金へ移行することを承認した。



芳名録



平成18年10月から募金活動を始め、平成23年3月までの間に、卒業生・教職員はもとより、産業界、各界の幅広いご支援を賜りましたことに、心より御礼申し上げます。ここに感謝の意を表し、ご支援いただきました皆様方のご芳名を記載させていただきます。

勝手に恐縮ではございますが、敬称は省略させていただきます。また、企業様におかれましては、ご寄附いただいた当時の社名で掲載させていただきます。

り	渡邊 弘志 渡邊 豊 若林 一男 若林 憲治 若林 澄治 若林 直明 若松 克己 若松 茂樹 若松 直徳 若松 善英 若山 弘 脇 栄俊 脇坂 隆則 脇坂 忠男 脇迫 仁 脇田 清貴 脇田 満信	脇部 康彦 脇山 康治 分山 養達 和栗 眞次郎 和田 保隆 和才 京子 和才 哲夫 早尻 哲也 和田 昱二 和田 和実 和田 清 和田 俊治 和田 昌祐 和田 高旺 和田 哲次 和田 知之 和田 英樹 和田 博 和田 亮	和田 洋二 和田 緑郎 渡壁 稔 渡辺 明 渡辺 篤 渡邊 功 渡邊 英司 渡邊 英次 渡辺 一司 渡辺 一廣 渡邊 和美 渡邊 敬介 渡邊 幸治 渡邊 聰 渡辺 哲 渡邊 暁志 渡辺 茂 渡部 周司 渡邊 昭三	渡邊 信一 渡辺 信弼 渡辺 節子 渡辺 隆男 渡辺 孝之 渡部 剛 渡邊 哲哉 渡辺 輝彦 渡辺 利秋 渡辺 敏郎 渡辺 利正 渡邊 直美 渡辺 伸一 渡辺 晴子 渡邊 一志 渡邊 浩司 渡辺 洋 渡邊 博孝 渡部 弘通	渡邊 政幸 渡辺 護 渡辺 美樹雄 渡邊 優一 渡邊 嘉昭 渡辺 義則 渡辺 吉美 渡邊 路維 綿貫 昭二 渡部 昭雄 渡 秀則
---	---	---	--	---	--

匿名者 1 名

企業名(五十音順) 196社

あ
アイシン・エイ・ダブリュ株式会社
アイシン精機株式会社
アイム電機工業株式会社
朝日アルミニウム株式会社
旭化成株式会社
旭硝子株式会社
旭金属工業株式会社
旭有機材工業株式会社
荒川眼科医院
株式会社アルファシステムズ

い
石川金属工業株式会社
いすゞ自動車株式会社
出光興産株式会社
株式会社インフォセンス

う
宇部興産株式会社

え
AGCエスアイテック株式会社
NECエンジニアリング株式会社
NECマイクロシステム株式会社
NTTコムウェア株式会社
株式会社NTTデータ
株式会社NTTデータNCB
株式会社NTTデータ九州

お
オークマ株式会社
株式会社オービック
岡野バルブ製造株式会社
株式会社オネスト九州
株式会社音戸工作所

か
学校法人金澤学園
株式会社カネカ
環境テクノス株式会社
関西電力株式会社

き
株式会社九建
九州車両資材株式会社
九州タイテック株式会社
株式会社九州テクノリサーチ
株式会社九州テン
九州電力株式会社
九州ホイール工業株式会社
九州三菱自動車販売株式会社
九州旅客鉄道株式会社
九電産業株式会社
京セラ株式会社
株式会社きんでん

く
株式会社クラレ
黒崎播磨株式会社

こ
株式会社コア
江田工事株式会社
株式会社神戸製鋼所
株式会社興和工業所
光和精鉱株式会社
小倉合成工業株式会社
小島プレス工業株式会社
株式会社小松製作所
コンピュータエンジニアリング株式会社

さ
西部ガス株式会社
株式会社SUMCO
山九株式会社
三建産業株式会社
株式会社三五
株式会社三福
株式会社三和

し
株式会社ジェイコム北九州
株式会社ジェイテクト
JFEホールディングス株式会社
株式会社シティアスコム
株式会社島津製作所
触媒化成工業株式会社
株式会社しろみず
信号電材株式会社
神鋼メタルプロダクツ株式会社
神鋼リードミック株式会社
新日鉱ホールディングス株式会社
新日鐵化学株式会社
新日鉄ソリューションズ株式会社
新日本製鐵株式会社
新日本非破壊検査株式会社

す
スミスキャリア株式会社
住友化学株式会社
住友金属工業株式会社
住友鋼管株式会社

せ
正晃株式会社
株式会社正興電機製作所
西部電機株式会社
西部電気工業株式会社
株式会社ゼンリン

そ
総合警備保障株式会社
ソニー株式会社
ソニー・エルエスアイ・デザイン株式会社
ソニーセミコンダクタ九州株式会社

株式会社ソルネット

た
ダイキン工業株式会社
大光炉材株式会社
ダイソー株式会社
大日本インキ化学工業株式会社
ダイハツ工業株式会社
太平工業株式会社
太平洋セメント株式会社
大豊工業株式会社
株式会社タカギ
タンポポ産業株式会社

ち
中国化薬株式会社
中国電力株式会社
長菱設計株式会社

つ
株式会社翼エンジニアリングサービス

て
帝人株式会社
株式会社デンソー

と
東亜非破壊検査株式会社
東海カラー株式会社
東海ゴム工業株式会社
株式会社東芝
東芝イーアイコントロールシステム株式会社
TOTO株式会社
東洋検査工業株式会社
東洋建設株式会社九州支店
東洋鋼板株式会社
東レ株式会社
東レエンジニアリング株式会社
戸畑共同火力株式会社
株式会社戸畑製作所
トヨタ自動車九州株式会社
豊田合成株式会社
トヨタ自動車株式会社
株式会社豊田自動織機
トヨタ車体株式会社
株式会社トヨタ車体研究所
株式会社豊田中央研究所

に
株式会社ニコン
西技工業株式会社
西日本技術開発株式会社
株式会社西日本シティ銀行
西日本鉄道株式会社
西日本プラント工業株式会社

日産化学工業株式会社 電子材料研究所
日新製鋼株式会社
日鐵運輸株式会社
日鐵環境エンジニアリング株式会社
ニッテツ八幡エンジニアリング株式会社
日本板硝子株式会社
日本システムウェア株式会社
日本磁力選鉱株式会社
日本ゼオン株式会社
日本タングステン株式会社
日本鑄鍛鋼株式会社
日本電管株式会社
日本発条株式会社
株式会社日本ビジネスエンジニアリング
日本非破壊検査株式会社

は

八光オートメーション株式会社
パナソニックコミュニケーションズ株式会社
バブコック日立株式会社
濱田重工株式会社

ひ

日立金属株式会社
株式会社日立情報システムズ
株式会社日立製作所
日立造船株式会社
日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社
株式会社日立超LSIシステムズ

ふ

株式会社フジキン
株式会社フジコー
富士電機ホールディングス株式会社
株式会社フジモト
株式会社ブリヂストン
古野電気株式会社

ほ

帆足歯科医院
本田技研工業株式会社

ま

株式会社牧野フライス製作所
株式会社松尾設計

松下電器産業株式会社
松下電工株式会社

み

三島光産株式会社
溝江建設株式会社
株式会社三井ハイテック
株式会社三岩エンジニアリング
三菱化学株式会社
三菱化学エンジニアリング株式会社
三菱化学カルゴン株式会社
三菱重工業株式会社
三菱電機株式会社
三菱電機コントロールソフトウェア株式会社
三菱長崎機工株式会社
三菱マテリアル株式会社
美浜株式会社
株式会社宮房冷機

め

株式会社明電舎
株式会社明和eテック

や

株式会社安川電機
八幡電機精工株式会社
ヤマザキマザック株式会社
ヤンマー株式会社

ゆ

株式会社ユー・エス・イー
祐徳薬品工業株式会社
ユシロ化学工業株式会社

り

菱電商事株式会社

ろ

ローム甘木株式会社

わ

株式会社ワイ・イー・データ
和光純薬工業株式会社

明専会グループ(五十音順)30グループ

お

応用化学科世話役竹中先生

か

化42 卒業生有志一同

き

九工大卒業50年の集い参加者一同
H20年九州工業大学建設系同窓会
キ23 クラス会一同
「教育と研究の高度化事業」コーディネーター一同
機械工学世話役幹事

く

呉支部会員一同

け

剣道部後援会一同

こ

株式会社神戸製鋼所 大安工場 3名様
鉦29 式典出席者一同

さ

サンサン会(機33年卒同期会)一同

し

JIEKT九州工大OB会有志
株式会社しろみず会員一同
下関支部
情報工学部 知能情報工学科 一期生一同

す

住友金属小倉(株)

そ

ソフトテニス部 OB会有志一同

ち

中京明専会

つ

塚本先生還暦お祝い会

て

電気電子世話役幹事

ひ

姫路支部

ふ

藤崎一裕教授退官記念事業会

ま

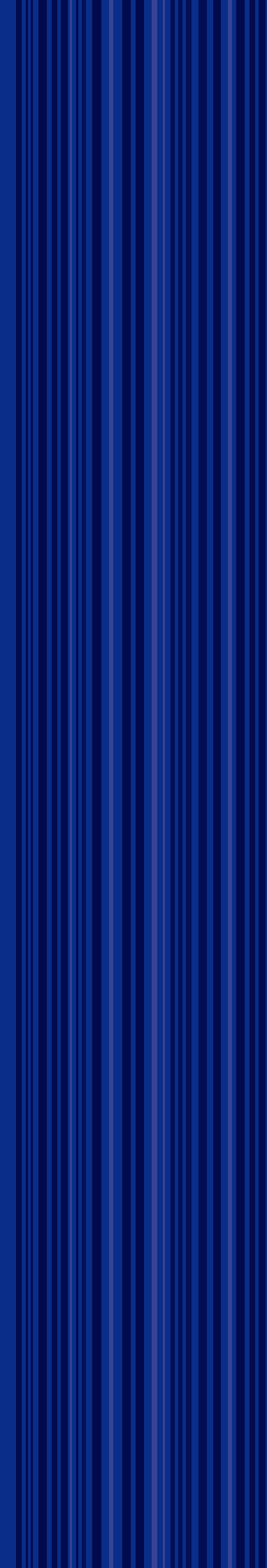
マテリアル世話役幹事
松永先生叙勲祝賀会

め

明専会周南支部
明専会宮崎支部

や

ヤ23 同窓一同



国立大学法人

九州工業大学

編集・発行 九州工業大学総務課

〒804-8550 福岡県北九州市戸畑区仙水町1番1号

TEL:093-884-3004 FAX:093-884-3015

発行日

平成28年9月

旧本館 全景 (辰野 金吾 氏 設計)